



光栄の森

平成26年9月 毎月1日発行 第75号
発行者 光栄プロテック 編集

9月を迎えるにあたり

代表取締役 三田雅憲

このところ、天候が良くなく雨の日が続いております。一日一日季節が秋に向かっていくような気がいたします。残暑もありますので、社員一同ご家族様も気をつけて下さい。

さて最近私は、自分がやっていることが一番とか、このやり方がベストであろうと、そう思いながら行動しているのではないかと感じる瞬間がありました。偉そうな意味ではないのですが、人生経験を重ねうまく物事が動くやり方なども心得ると、どうしても新しいことや自分の価値観外の革新的なことを否定しがちになっていきます。仕事はこうやるべきだという考えが大きくなり、違う発想を受け入れ難くなっているのです。

先日、関東の金物メーカーさんに当社へおいでいただきました。その後、今度は私が千葉にあるそのメーカーさんの主力工場へお伺いしました。1万5000坪もある敷地に4つの工場棟と2つの管理棟、その他テニスコートやミニゴルフ場なども完備し、入り口には守衛さんまでおられる立派ないでたちでした。200人弱の会社でこれほど立派にしておられる会社はあまりみたことがありません。すでに40年近く経過しているそうですが綺麗にされておりそんなに経過している風には見えないのです。行く先々で社員さんに挨拶をしていただき、気持ちの良い感じでした。年配者と若年社員が入り混じり頑張っておられました。

硫化イブシをやっている工場に入らせていただきました。そこには非常に考えてレイアウトされた人員配置と設備配置がなされており、自社開発の検査機で客観的に検査数値を出し、CPが読み込むような革新的な部分もありました。私のような既成観念に固まっている人間には発想しないような工場でした。それだけ先進的なやり方をされているのに若い管理者の方は、ぜひ光栄プロテックと技術交流をしていきたいと申されました。設備だけに頼るのではなく、もっとどうしたら自分たちが技術的に良くなるのかと真摯に考えている様子でした。この人員配置や設備に関して、K常務さんは考えに考えて考案されたのではないかと思います。数々の修羅場を越えてきたようなその姿に、こういう方がこの会社を支え発展させてきたのだと本当に感じました。

昼食をいただきながら昔の話をさせていただきました。まだ創業の頃は、木造造りの小さい掘っ立て小屋のような工場でテント等を張って製造していたこと。そのときは雨が降ると、濡れないように設備を動かしていたこと。来る日も来る日も仕事に追われていたこと。とんでもない奴が多かったことなどなど。そのようなところからここまで発展してきたことは、本当に素晴らしいことだと思いました。今現在、売上の50%が国内で50%が海外の仕事だそうです。海外の各国に駐在員を置いて営業活動も行っておられるそうです。

最初の話に戻りますと、私は硫化のように熟練の必要な仕事はメーカーではできないと思っていましたが、この先入観は7割程度誤っておりました。あとの3割にあたる仕上げや塗装は外注業者が入っているそうで、やはりできない部分もあるのです。しかし、そこにも外注のする仕事を仕事をしっかりと見せ、次世代がやっていけるような仕組みを作っておられました。

今後このような顧客がますます増え、より売上を伸ばし、皆の未来が安泰になるように頑張っていきたいと思いました。9月も大型案件やグレードの高い製品がたくさん入ってきます。体力を含めみんなで乗り切れるよう頑張しましょう。